

5章 資料編

1 情報提供資料

市民自治を考える市民ワークショップ

市民自治が進んでいるまちって どんなまち？

日時：令和4年2月26日（土）13:00～16:00
場所：札幌市教育文化会館3階 研修室305
主催：札幌市 市民自治推進課

本日のプログラム

13:00	—	1. 開会、あいさつ
13:10	—	2. 情報提供①(10分)
13:20	—	3. 情報提供②(20分)
13:40	—	4. ワークショップ①(40分) まちの課題から解決までを考え、 市民自治を考えましょう
14:20	—	5. 休憩(10分)
14:30	—	6. 情報提供③(10分)
14:40	—	7. ワークショップ②(40分) 市民自治が進んでいるまちってどんなまち？
15:20	—	8. 各グループから発表
15:50	—	9. まとめ
15:55	—	10. 閉会のあいさつ、アンケート記入

情報提供①

「市民自治」と 「札幌市自治基本条例」



市民文化局 市民自治推進室



「市民自治」ってなに？

自分たちのまちをより良くするために
“市民が主体となって考え、話し合い、行動する”

◆札幌市自治基本条例（2006年10月制定）
⇒「市民自治によるまちづくり」を進めるためのルール





条例はどうしてできたの？

◆自治基本条例ができた背景 3つ

① 地域課題の複雑化・多様化
市民の力も必要に

② まちの成熟化
あれか、これかの選択の時代、市民意見の重要性

③ 地方分権の進展
自治体の責任で決める時代



条例はどうしてできたの？

① 地域課題の複雑化・多様化

- 急激な人口増 ・ 生活領域の拡大
昭和31年 50万人 → 平成22年 190万人突破
- ライフスタイル、価値観の多様化



- ・地域ごとに異なる課題の発生
- ・課題の複雑・多様化



条例はどうしてできたの？

① 地域課題の複雑化・多様化

- ・地域ごとに異なる課題の発生
- ・課題の複雑・多様化



- ★市だけではなく、市民の力も重要に
- ★市民自らが課題を解決しようとする動きも活発に



条例はどうしてできたの？

② まちの成熟化

- ハード整備(施設・道路等)は概ね終了
- 少子高齢化、経済成長の鈍化
- 「あれも、これも」でなく、
「あれか、これか」の選択が必要



- ★市民が参加して、納得できる選択を
- ★まちづくりの仕組みづくり(ソフト面)に着目



条例はどうしてできたの？

◆自治基本条例ができた背景 3つ

① 地域課題の複雑化・多様化

市民の力も必要に

② まちの成熟化

あれか、これかの選択の時代、市民意見の重要性

③ 地方分権の進展

自治体の責任で決める時代



条例には何が書かれている？

◆札幌市自治基本条例(2006年10月制定)

- ・市民の力や市民意見の重要性を背景に制定
- ・「市民自治」=「市民が主役のまちづくり」を進めるための基本ルール



条例には何が書かれている？

- まちづくりの基本となる考え方
- 市民、議会、行政(市長・職員)の役割
- 札幌市の行政運営(総合計画、財政運営等)
- まちづくりの推進(情報共有・市民参加)
- 他の自治体等との連携・協力



条例には何が書かれている？

◆条例のポイント 3つ

① まちづくりの基本理念・基本原則

② 市民が主体

③ 情報共有・市民参加



このワークショップについて

◆ワークショップテーマ

市民自治が進んでいるまちってどんなまち？

◆設定背景

市民自治の推進は、市のまちづくりにおいて大切な視点…しかし、「市民自治」の進み具合や、市の取り組みを評価する指標や尺度が確立されていない
⇒ワークショップを通じ、今後のヒントやアイデアなどを、皆さまから頂戴したいと考えています。

ご清聴ありがとうございました



③全市的テーマのワークショップ



市民対話事業 2030冬季オリンピック・パラリンピックの招致を考えるワークショップ 22

全市的テーマのワークショップ



札幌市 総合交通計画策定に向けた検討会 23

④審議会・委員会への参加



真駒内駅前地区まちづくり検討委員会



札幌市歴史文化基本構想 策定委員会



手話・障がい者コミュニケーション検討委員会 24

活動をする

- ・地域の町内会活動など身近なまちづくり活動への参加やNPO活動などで参加する方法もあります。

- ①町内会活動
- ②身近なまちづくりへの参加
(地域レベルのワークショップ)
- ③NPO活動
- ④PTA活動
- ⑤ボランティア活動

25

①町内会活動への参加

ごみステーションの管理・清掃活動



26

町内会での除排雪



パートナーシップ排雪

27

災害時の助け合い



28

高齢者の見守り



29

②身近なまちづくりへの参加
(地域レベルのワークショップ)



町内会について考えるワークショップ



30

③NPOなどの活動



ゲストハウスにおける学童保育



札幌市清田区 北野の子ども食堂



富士見市の子育てサロン「ミッキークラブ」

31

④PTA活動



交通安全運動



読み聞かせ活動



PTAバザー

32

⑤ボランティア活動



清掃ボランティア greenbird



森林ボランティア



観光ボランティアガイド

33

事例から市民自治を考える

知る

意見をする

活動をする

34

事例1: 静岡県牧之原市

話し合いの場「男女共同サロン」

知る

意見をする

活動をする

- ・人口 約4万5千人
- ・『津波防災まちづくり計画』を策定をきっかけに「男女共同サロン」として市民がまちづくりについて話し合う仕組みができた。
- ・話し合いの進行は市民が行い、行政職員や専門家なども同じ立場で話し合う。
- ・まちづくりへの思いを、住民同士で話し合い、実現させる場となっている。



35

事例2: 佐賀県 武雄市

SNSを使った行政と
市民のコミュニケーション

知る

意見をする

- ・人口 約4万8千人
- ・1万4000人以上が「いいね」し、リアルタイムで市民と行政のコミュニケーションができるチャンネルとして使われている。
- ・例えば、路面のトラブルでは投稿があった翌日に道路整備の担当の課が現地に向かうなど、武雄市は迅速な対策がとられている。



36

事例3: 神奈川県 横浜市

財政のみえる化と官民連携の提案窓口

知る

意見をする

- ・人口 約372万人
- ・WEBサイト「横浜市財政見える化ダッシュボード」を開設し、民間事業者の皆様が、各予算事業に対して公民連携の提案ができる機能をつけている。
- ・民間事業者からの連携に関する相談・提案を受け付ける総合窓口として、「共創フロント」を設置し、運用。
- ・各予算事業ページに「提案ボタン」があり、事業の提案ができるようになっている。



37

事例4:富山県 氷見市

市役所庁舎・フューチャーセンター

- 人口 約4万8千人
- 「氷見市を市民と行政が一番近い街にしたい」という市長の考えから、多様な主体が対話を通じて問題解決を考え、実行する場を市役所庁舎を設けた。
- フューチャーセンターは市民やNPOなどさまざまな人が出入りし、話し合い、クリエイティブな対話を促す場となっています。
- 市民との協働をコーディネートする役割として、地域担当職員を配置しています。



知る

意見をする

活動をする

38

空き家・空き施設の増加



39

環境への取り組み



40

クラウドファンディングで「夜の図書室」を整備

- クラウドファンディングで1700人以上から9,400千円以上の資金を集めてつくられました。
- 渋谷に行ったときや仕事帰りに気軽に立ち寄って、飲みに行ったついでに本が借りられます。
- 渋谷に深夜1時まで利用できる「夜の図書室」があります。



知る

活動をする

39

クラウドファンディング



子育て中のママたちが
家庭から地域へ 地域から社会へ ソフトランディングしていけるよう
子育て中のママたちがスタッフとなって
『地域社会と母親をつなぐ活動』をしています！

40

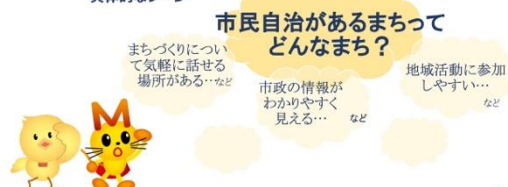
ワークショップ1

41

ワークショップの目標

- 市民自治があるまちの姿を共有しましょう。
- 札幌市が市民自治があるまちにどのくらい近づいたかを評価する指標を考えてみましょう。

具体的なシーン



42

ワークショップ1

まちの課題から解決までを考え、市民自治を考えましょう

- ① 普段の生活の中で、感じているまちの課題をあげてみてください。
- ② グループ内で、あがったまちの課題から、1つか2つ選んで、その解決方法を話し合ってください。
 - 課題解決のための情報は？
 - 話し合いの場はどうする
 - 行動(誰が・どのように)は？

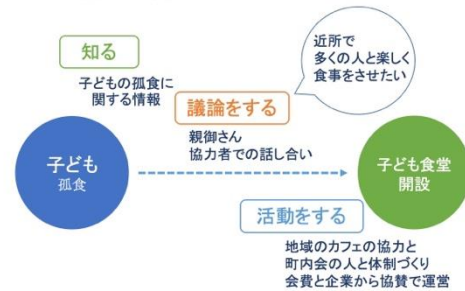
43

まちの課題（例）



44

まちの課題解決



45

情報提供③

46

市民自治があるまちのイメージ 先進事例

47

事例1: 島根県 海士町

総合計画策定から町民主体のまちづくり活動

- 人口 約2,300人
- 第4次総合振興計画「島の幸福論」の策定をきっかけに町民参加のまちづくりが進展
- 別冊「海士町をつくる24の提案」など、町民自らまちづくりに関わるための手引書などを作成
- 町民参加のまちづくりをきっかけにまちづくりに関わる人材育成が進み、今ではさまざまな町民主体のまちづくり動きが進んでいる



48

商品開発



高校魅力化プロジェクト (廃校を防ぐ)



島宿の立ち上げ



交流人口を増やす 会員制コミュニティ



49

事例2: 札幌市清田区 きよたまちづくり区民会議

行政と連携した区民主体のまちづくりを動かす仕組み

- 人口 約11万2千人
- 清田区のまちづくりに関して、区民が集まって話し合い、考え、そして行動するため、各地区町内会連合会をはじめさまざまな団体の代表者で構成している
- 区民会議で話し合ったアイデアをもとにした事業が実現され、清田区のにぎわいづくりや魅力発信につながっている



50

きよたマルシェ&きよフェス



まちの灯りinきよた



51

事例3:神奈川県 横浜市 美晴台町内会

地域の課題解決から生まれたゆるやかなつながり

- 世帯数 約700戸
- 基盤目状の道路、整然とした宅地が広がっているため、コミュニケーションや防災防犯のため、道に愛称をつける取組を町内会から市に提案
- 横浜市の補助金を受けながら、子どもたちと愛称を考えたり、看板を設置
- 「道に愛称をつける会」から子ども向けイベントを開催するチーム、町内の助け合いチームなど、さまざまなチームが発生し、連携しながら地域運営している。



52

- 活動によって住みやすく、個性ある、親しみやすいまちとして知名度が上がった
- 特に子どもたちの保護者にとって「住みやすい地域」として移住希望者が多く、空き家がでない地域となった

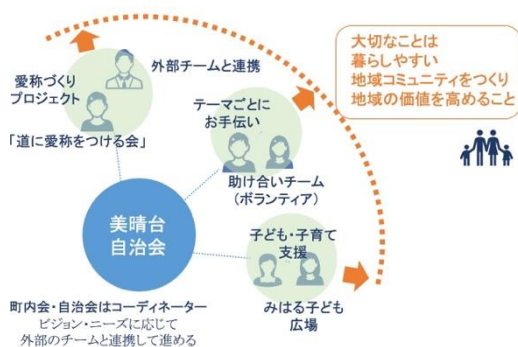


美晴台愛称マップ



電信柱に設置した愛称

53



54

ワークショップ2

55

ワークショップ2

市民自治が進んでいるまちってどんなまち？

- 市民自治が進んでいるまちのイメージを具体的に考えてみます。
- どのような人がどのような方法で取り組むシーンがイメージされますか。
- それらを評価する指標も考えてみましょう。

56

市民自治基本条例における理念

市民が主体となって考え、話し合い、まちづくりの行動をする

57

ワークシートのイメージ

市民自治が進んでいるまちのイメージとその指標			
	知る	議論・意見する	行動する
市政レベル 課題から考えてみる	行政が進めていることが、SNSなどで気軽に伝える		
区レベル 学区レベル	SNSなどのフォロー数、投稿数など		
地域コミュニティレベル (町内会など)	地域のまちづくりの拠点となる場所がある 拠点の数		地域のリーダーとして引っ張っていかける人材がいる 人材育成のセミナー開催数

59

2 アンケート票

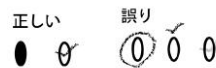
「市民自治を考える市民ワークショップ」 アンケート



今後の参考にさせていただきますので、以下のアンケートにご協力下さい。

〈回答用紙の記入方法のお願い〉

ご回答にあたっては、設問ごとの説明にしたがって、あてはまる○印に黒色インクの筆記用具でチェックをつけてください。その際、「1つに」、「あてはまるもの全てに」などそれぞれ指定されていますので、ご注意ください。



質問1 「市民自治を考える市民ワークショップ」に参加して

(1) 参加された感想をお聞かせ下さい。最もあてはまるもの1つにチェックをつけてください。

- 1 0 大変満足 2 0 満足 3 0 不満足
4 0 大変不満足 5 0 その他 ☐

(2) (1) で「大変満足」「満足」とご回答された方にお伺いします。

その理由は何ですか。あてはまるもの全てにチェックをつけてください。

- 1 0 市政に参加できたから 2 0 他の人の意見を聞くことができたから
3 0 報酬がもらえるから 4 0 新しい気づきや発見があったから
5 0 その他 ☐

(3) (1) で「不満足」「大変不満足」とご回答された方にお伺いします。その理由は何ですか。

あてはまるもの全てにチェックをつけてください。

- 1 0 有意義な話し合いができなかったから 2 0 市政について理解できなかったから
3 0 思ったより大変だったから
4 0 その他 ☐

質問2 情報提供について

(1) 市民自治に関する基礎情報や、先進事例の紹介などの情報提供について、

あてはまるもの全てにチェックをつけてください。

- 1 0 分かりやすかった 2 0 大変参考になった
3 0 もう少し詳しく聞きたかった 4 0 よくわからなかった
5 0 その他 ☐

(2) (1) で「よくわからなかった」とご回答された方にお伺いします。その理由は何ですか。

あてはまるもの全てにチェックをつけてください。

- 1 0 内容が難しい 2 0 説明が不十分
3 0 用語が難しい 4 0 話が聞き取りにくい
5 0 説明の時間が短い 6 0 その他 ☐

質問3 話し合いについて

(1) 話し合いの方法について、あてはまるもの全てにチェックをつけてください。

- 1 0 話しやすい方法だった 2 0 最初はなかなか言葉が出にくかった
3 0 話しづらかった 4 0 その他 ☐

(2) (1) で「話しづらかった」とご回答された方にお伺いします。その理由は何ですか。(自由回答)



000000005s24

裏面に続きます



質問4 参加して得たものは何ですか。あてはまるもの全てにチェックをつけてください。



- 1 ☐ 市民自治への理解が深まった 4 ☐ 他の人の意見が参考になった
2 ☐ 市民自治への関心が高まった 5 ☐ 意見を言うことの難しさを感じた
3 ☐ 自分の考えを整理することができた 6 ☐ 特に何もなかった
7 ☐ その他 ☐

質問5 市民が市政への参加やまちづくり活動について考え、意見を出すワークショップを実施することについて、どのように思いますか。あてはまるもの全てにチェックをつけてください。

- 1 ☐ 市民の意見が反映されるので良いことだと思う
2 ☐ 専門家で実施した方が良いと思う
3 ☐ より多くの市民が参加できる工夫が必要だと思う
4 ☐ その他 ☐

質問6 今後もこのような取組に参加したいですか。最もあてはまるもの1つにチェックをつけてください。また、その理由は何ですか。(自由回答)

- 1 ☐ ぜひ参加したい 2 ☐ 参加したくない
3 ☐ どちらとも言えない 4 ☐ その他

【その理由】

質問7 回答者さま自身について

(1) あなたの性別を教えてください。あてはまるもの1つにチェックをつけてください。

- 1 ☐ 男 2 ☐ 女 3 ☐ その他

(2) あなたの年代を教えてください。あてはまるもの1つにチェックをつけてください。

- 1 ☐ 20代 2 ☐ 30代 3 ☐ 40代
4 ☐ 50代 5 ☐ 60代 6 ☐ 70歳以上

質問8 その他、ご意見・ご感想、ワークショップのあり方などについてご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。



000000005s3f

